



# パワー浜松ロータリークラブ週報 2013年11月19日号

パワー浜松ロータリークラブ(2013-14年度会長:松本好司)  
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室  
Tel:053-452-0800 Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp  
創立:2002年10月22日 認証伝達式:2003年4月29日 スポンサークラブ:浜松中RC

**本年度テーマ:Rotary Mind、Rotary Wayを確認しよう**  
～心で感じて・考えて・活動しよう～



## 第511回例会11月19日 PM7:00～8:00

### オークラクトシティホテル浜松4F平安の間

- 司会:木村満義、加藤ひとみ ■点鐘:松本好司
- ロータリーソング:希望のエナジー
- ゲスト:静岡大学客員教授 中西美沙子様、米山奨学生 蔡遣さん
- 議事:中西美沙子様 卓話

## 会長挨拶

先週はガバナー訪問でしたが皆さん何かを感じ取っていただけましたでしょうか。本日は、静岡大学客員教授中西美沙子様をお迎えしての卓話です。浜松は織物、金属加工、JR東海浜松工場などものづくりの街として発展し人材を育ててきました。その発展の中には静岡大学工学部があったからこそと考えています。本日の卓話よろしくお願い致します。

さて、本年も残すところわずかとなり、清々しい爽やかな秋を感じる間もなく冬到来を感じる今日この頃です。皆さん体調管理には気をつけて下さい。

来年より例会の中でいろんな事を取り入れて運営していきたいと考えています。具体的にはファイヤーサイドミーティングの流れを例会に生かして中核的価値観・職業奉仕などについて、井戸端会議のような親睦を兼ねた場作りを毎月1回くらいは行いたいと考えています。そこから奉仕活動などの企画が生まれる事を期待したいです。

今月のロータリーの友には、DO GOOD WORK(良い仕事をしよう)とあります。自分の職業上のスキルを生かしてほかの人々を助けることは、ロータリーの核心とも言える部分です。また、それぞれの職場でリーダーとして活躍する人々が、従業員、仕事仲間、そして地域社会の中で模範となる倫理的行動をとることも、職業奉仕の一つの形、と述べられています。職業奉仕の例会プログラムを皆さんで検討し楽しい例会にしていきたいです。

## スマイル報告

### 松本好司会長、諸星圭吾幹事

中西美沙子様、本日は卓話講師ありがとうございました。光の可能性について貴重なお話を頂き大変勉強になりました。本日はありがとうございました。

## 出席報告

本日出席率  
60/78名  
76.92%  
前々回出席率  
87.1%



## 幹事報告

1. レターケースにてガバナー月信を配布致しましたのでご確認下さい。
2. 地区関係より:11月23日(土)13:30より地区補助金管理セミナーが商工会議所にて開催されます。次年度の未来夢計画に関するセミナーです。
3. 次週例会は出席部会担当で「ヘリカル炭素とは何か」講師の岐阜大学工学部名誉教授 元島栖二様(もとじま せいじ様)をお招きしての卓話です。ご出席お願い致します。

## ハッピーバースデー

- 加藤ひとみさん**(9月15日) 56才になりました。これからはゴロゴロしていようと思いましたが、ゴロゴロするとデブデブするのでコロコロくらいにします。
- 近藤雅彦さん**(10月23日) 53才になりました。今年の夏くらいに、山村さんに誘われてバンドをやりました。20年ぶりにやって楽しかったです。
- 中野雄介さん**(11月1日) 29才になりました。昨年は結婚して5キロ以上太りました。ダイエットしながら全力で走りたいと思います。
- 伊藤勝人さん**(11月15日) 隣の部屋に行くと何をやりきたのかわからなくなり、また隣の部屋に行くとわからなくなります。
- 五十嵐晴巳さん**(10月18日) 50才になり自分が半世紀頑張ってきたことが嬉しくて、子供たちにメールを送ったら、おめでとうというメールが3人から返ってきました。
- 村田誠さん**(11月17日) 56才になりました。ロータリーに入ってちょうど1年たったんだなと感動をしました。がんばっていきたいと思います。

## 光の可能性に関わって

静岡大学客員教授 中西美沙子さん

私は、本来、物書きで、言葉に関わってきた人間です。現在は静岡大学の客員ですが、所属は電子工学研究所になります。理系ではない私が、何ができるか考えたとき、大学と市民社会を結びつけることができるというなと考えました。

私の夫は大学にいた人間で、高柳健次郎の愛弟子です。6月に「浜松光宣言」が出されました。光技術の国際的拠点を浜松に設置しようと、静岡大学、浜松医大、光産業創成大学院大、浜松ホトニクスの4者が連携します。アベノミクスの政策のひとつで、日本が世界に伍して生きていくためには、IPSと光とバイオが必要とのことで、予算も出まして、静岡大学浜松キャンパス内に来年秋に拠点が完成します。

浜松ホトニクスは、最初はベンチャー企業でした。これまでにカミオカンデとヒッグス粒子で二度もノーベル賞の受賞に貢献しています。光電子増倍管のシェアは世界の9割。儲かることだけを考えている企業ではありません。学術的なものを残すということも考えている企業なので、研究者も生き生きしています。社訓は人類未知未踏に挑戦する。最初は成功するかわからない、けれど失敗してもやってみようという理念です。

ホトニクスは、光の信号を電気の信号に変える研究をしています。対して静岡大学は、電子を光子にする研究をしている。画像を取り込み、処理し、見えない光線も可視化するというをやっています。浜松医大は光の可能性のなかで医療への応用を研究しています。

カミオカンデに関してお話しすると、16万年前にマゼラン星雲が爆発し、そのときに放出されたニュートリノの粒子が16万光年を経て地球に届いた。それを東大の小柴先生が神岡鉱山の地下に用意した大きな水槽で受け止めました。そこにホトニクス製の25インチ光電子増倍管が1000本取り付けられていて、ニュートリノと水の粒子が反応して発する青白い光をとらえたのです。



当時、光電子増倍管は6インチが主流。その時代に25インチを作ってくれと小柴さんは依頼したわけです。浜松ホ

トニクスの現会長の晝間輝夫さんが社長であった時代で、輝夫さんが「それは無理だ」と東大に断りにいったら、小柴先生の部屋に掛かっていた宗教画をみて、「やってみてもいいじゃないか」と思い直し、会社に持ち帰ったという逸話が残っています。

この精神はずっとホトニクスに息づいていて、いつも大きなテーマを考えている。前社長の輝夫さんは、「考える光のコンピュータをつくれ」と言いました。それを、みんなで想像力を働かせて作っていきなさいということです。現社長の晝間明さんは「セクシーなソフトを開発せよ」と言っています。1つのことをやるのではなく、脇のものも巻き込んでいくようなソフト、柔軟性のある想像力のことだと思えます。子供のように、直感的にものをとらえ、固定観念に惑わされることなくモノを見よ、と。リンゴがあれば、その表面には赤も青も黄色もあるとのです。成長すると「概念」でものをみますから、リンゴは「赤くて丸いもの」と見てしまいがちです。

浜松は高柳健次郎の「イ」の字からはじまり、テレビの研究をやり、自動車に移り、それから光へと産業を拡大させつつあります。車は電気の配線で動いていますが、光で動く車も考えられ始めています。地元のいろいろな企業を巻き込んで「浜松光宣言」はうたっています。静岡大学には協力会があって、鈴木修さんが会長をやっています。ホトニクスの晝間明社長は、「光技術は医療や自動車にも使われているが、応用の可能性は無限大。賛同している企業と一緒にやって行きたい」と言い、大学も同じようなことを言っています。そういう拠点が浜松にできるということは、浜松も元気になるということだと思えます。

今日はいろいろありがとうございました。